

評価項目についての説明

1. 評価項目と評価意見（評価基準、視点）

項目	評価意見	評価基準、視点（参考）
①KPI達成状況について	A：達成している	目標の概ね90%以上を達成している場合
	B：概ね達成している	目標の概ね70～90%未満で達成されている場合
	C：十分とはいえない	目標の概ね50～70%未満の達成状況の場合
	D：見直しが必要	目標の達成率が概ね50%未満の場合
	達成年度を令和2年度で設定しているKPIについては、評価基準にとらわれず、進捗状況（年度間の平均値等）で判断を行います。 「十分とはいえない」、「見直しが必要」評価となった場合、手法等の再精査を行います。	
②成果（実績）の状況について	A：良好である	成果が十分発揮されており事業主体が形成されている。或いは事業が進められている。参加者の満足度が高い。
	B：概ね良好である	成果がみとめられ、具体的に事業主体形成が進んでいる。活動の開始に向けた準備が進められている。
	C：必ずしも良好とは言えない	会議や研修会など一定の取組みはみられるが、具体的な活動には至っていない。事業主体形成に至っていない。
	D：見直し・改善が必要である	組織づくりや事業主体形成が進んでいない。或いは参加者が減少傾向にある。満足度が低い。
	「必ずしも良好とは言えない」、「見直し・改善が必要である」評価となった場合は、手法等の再精査を行います。	
③改善・見直し事項等への意見	事業の改善点や見直しが必要な指摘事項がみとめられた場合意見をまとめます。 例：将来も継続して事業効果を発揮していくためには、事業主体の育成が必要である。 例：本件KPIについては、事業件数でなく生産額とする方が評価に適している。 例：〇〇事業の推進にあたっては、広域的に連携して行うことが効果的である。 例：〇〇事業については、民間事業者と連携して行うことが効果的である。	
④今後の方向性についての意見	A：現状を維持する	
	B：規模縮小を検討する	
	C：規模拡充を検討する	
	D：事業の改善・見直しを行う	
	E：KPIを見直す、KPIを追加する	